

# バンングラデシュから考える国際協力

**白津祈恵子** SHIRATSU KIEKO

社会科  
尚綱学院女子中学高等学校（宮城県）

実践教科 地球市民学習

時間数 6時間

対象学年 選択クラス・高校3年生

対象人数 82名

## カリキュラム案

### 実践の目的

本校は、地球市民学習という独自の授業をもち、比較的早い時期から開発教育に取り組んできた。2003年夏に、本校から私（JICA教師海外研修）と同僚の松宮正樹先生（NGOのスタディツアー）がバンングラデシュを訪ねた。短い期間ではあったが、今回二人の教員が見て触れた経験を地球市民学習の授業の中で生徒にダイレクトにぶつけたいと思った。そして、「国際協力」の如何を考え、自らのライフスタ

イルを見直すきっかけとなることを目指した。

実践にあたり様々な問題をいきなり投げかけるのではなく、まず日本とは異なる美しく魅力あふれる文化に触れることから始めた。また、授業だけの取り組みに限らず、文化祭で写真を展示し、多くの人にバンングラデシュについて触れてもらう機会を作った。

※本実践は松宮正樹教諭（社会科）と共同で作成しました。

### 授業の構成

時間・テーマ・ねらい	方法・内容	使用教材
<b>1～2時間</b> バンングラデシュを知る 導入としてバンングラデシュに興味を持つ。	(1) バンングラデシュクイズ・ビンゴを行う。 (2) ビンディの形ごとにグループ分け。モノ・フォトランゲージでベンガル人の衣食住や歴史をグループで話し合いながら知る。	・バンングラデシュクイズ (資料1) ・フォトランゲージワークシート (資料2) ・バンングラデシュで撮影した写真や収拾した衣服やお茶、通貨、ジュート製品
<b>3～4時間</b> バンングラデシュの開発問題を考える 日本政府やNGOがどのように問題に関わり協力を進めているのかを知る。	(1) ストリートチルドレンから見るNGOの取り組み。 (2) ODAについてのクイズを交えた講義。リプロダクティブヘルス人材開発プロジェクトから性的問題まで考えさせる。	・パワーポイント ・ビデオ「生きる力を持つ子どもたち、ダッカのストリートチルドレン」(シャブラニール=市民による海外協力の会) ・写真 ・小レポート (資料3)
<b>5～6時間</b> 国際協力とは何か 今までの学習を通して自分と国際協力の関わりを考える。	(1) 識字教育、農村でのショミティ活動。 (2) ダイヤモンドランキングでバンングラデシュの開発問題を考える。	・パワーポイント、ビデオ ・プリント

※ショミティ…ベンガル語で、相互扶助のための小グループのこと。



トリートスクールについてビデオを見ながら学習した。前回のフォトランゲージでストリートチルドレンについて多少触れていたの、彼らが実際に両親と離れて、働きながら生活する様子を知り衝撃を受けていたようだった。

## (2) ODAの使い方に見る日本からの協力

最初にODAについてのクイズを交えた講義をした。その後、具体的にどのようにODAが使われているのか、リプロダクティブヘルス人材開発プロジェクトから考えた。(1)で見たような民間の協力だけでなく、日本は国としてもバングラデシュの開発に取り組んでいることが分かったようだった。また、日本国内にも中絶問題など望まれない妊娠が多くあることを話し、身近な性の問題まで考えさせる契機となった。

### 5~6時間 国際協力とは何か

前回は都市での問題を取上げたので、今回は農村部での様子を伝えることにした。そして、バングラデシュの貧困をなくすために自分たちができることを考えるためにダイヤモンドランキングを用いた。

## (1) 識字教育、農村でのショミティ活動

ここでは、農村での識字教育やショミティ活動をパワーポイントで紹介した。識字率の低さと同時に夜暗い中、働いた後に一生懸命学ぶ姿勢に驚いていたようであった。

## (2) ダイヤモンドランキングでバングラデシュの開発問題を考える

まず1人で考え、次に隣の人と話し合った。そして、時間の関係上3組の考えを黒板に書いて発表した。自分自身のライフスタイルを見直すことが当初の目的であったが、そのような考えに至ったのは40人の内5人くらいであった。当初目標に掲げていたところまでは達することができなかったのが実情である。押し付けになっても意味がないのでこちら側の意見を話すこともあえてしなかった。というのも、生徒自身がどのように問題に関わったらよいかわからない一方で、バングラデシュの開発を願う気持ちも入り混じり、ある種の「もどかしさ」をそれぞれ感じていたようだったからだ。これは、さまざまな問題を考え解決していく上で必ず感じることであり、次へのステップになると思うからだ。日ごろ、馴染みが薄いバングラデシュと再びどこかで出会った時、次は自分自身がアクションを起こすきっかけになってほしいと願う。

### 授業で使った資料・教材の入手先

- ・ビデオ「生きる力を持つ子どもたち・ダッカのストリートチルドレン」(¥2,000)
- シャプラニール=市民による海外協力の会
- <http://www.shaplaneer.org/books/video.htm>

資料

1 1~2時限 プリント

地研市県学習資料 (A10/20, B11/6)

**バングラデシュ クイズ** ( )組 ( )名氏名 ( )

1. バングラデシュで最初に設立された銀行は (2001年) は?  
a. 1940年 b. 1914, 000年 c. 1940, 000年
2. バングラデシュの国花は何か?  
a. チョウジ b. フライ c. リリー
3. バングラデシュの国産品は何か?  
a. トマト b. ナシ c. タコス
4. バングラデシュで最も多く飲まれる飲み物は?  
a. コーラ b. ミスター C. ティー
5. バングラデシュで最も多くの人々が住む都市はどこか?  
a. モスク b. 仰光 c. 孟買
6. バングラデシュの人口は、何百万人か?  
a. 75 b. 75 c. 75
7. トイレットペーパーは、何から作られるか?  
a. 木 b. 紙 c. 葉
8. バングラデシュが独立したのはいつか?  
a. 1960年 b. 1971年 c. 1947年
9. バングラデシュの平均気温は (1994年) は?  
a. 男: 68, 女: 58, 2才 b. 男: 73, 女: 78, 2才 c. 男: 35, 女: 35, 7才
10. バングラデシュの人口は (2000年) は?  
a. 40, 8% b. 87, 0% c. 64, 1%
11. バングラデシュのADPは (2001年) は?  
a. 1億2, 720万人 b. 1億4, 037万人 c. 6, 358万人
12. バングラデシュのADPは (2001年) は?  
a. 975人/km<sup>2</sup> b. 341人/km<sup>2</sup> c. 113人/km<sup>2</sup>
13. バングラデシュの人口は (1997年) は?  
a. 1, 0% b. 0, 4% c. 6, 6%
14. 首都の人口は (2002年) は?  
a. 15, 800人 b. 12, 500人 c. 32, 900人
15. 首都の人口は (2002年) は?  
a. 1, 4% b. 2, 5% c. 3, 6% d. 4, 7% e. 5, 8%  
f. 6, 9% g. 7, 0% h. 8, 1% i. 9, 2% j. 10, 3%
16. 首都の人口は (2002年) は?  
a. 1, 4% b. 2, 5% c. 3, 6% d. 4, 7% e. 5, 8%  
f. 6, 9% g. 7, 0% h. 8, 1% i. 9, 2% j. 10, 3%

地研市県学習資料 (A10/20, B11/6)

**バングラデシュ クイズ [回答シート]**


正解数.....  
ビンゴの順位...

---

**フォトランゲージ [個人ワークシート]**

写真を見て何がわかるか、できる限りたくさん書いてください。

資料

2 1~2時限 プリント

**フォトランゲージ [ワークシート]**

( )組 ( )名氏名 ( )

グループで写真を見せ、

①

②

地研市県学習資料 (A10/20, B11/6)

**感想カード** ( )組 ( )名氏名 ( )

(1) バングラデシュに旅行してみたいと思う理由を教えてください。

(2) 石井や mackin Bangladesh の写真をみての感想を教えてください。

(3) ビデオを見てはじめて知ったことや驚いたことを教えてください。

(4) その他、思ったことを教えてください。

印刷用紙は、A10/30 (米), B11/7 (金) です。それ以外にありません。

資料

3 3~4時限 小レポート

授業小レポート

暹羅市民学校03号(A11/12,B11/13)

[ 2 ]組 [ 15 ]番 氏名 [ ]

指示に従ってレポートをまとめてください。また、今日の授業で感じたことを書いてください。その時に感想だけでなく、授業で取り上げた中で自分が気づいた問題点や新しい提案、自分がしたいことなどがあればそれを添えて書いてください。

バングラデッシュという国について学び、果たして世界には  
 まだまだ発展途上国がいろいろある。中には文字でも  
 読み書きできないような人達がいる。妊娠しても望  
 むがけない妊婦(たたり)、合併症に苦しんでいる人もい  
 ることを知りました。しかし、その国に日本が援助  
 していることも知り、感動がうわべに現れました。  
 文化は違うけれど、人々は共に生きるために、  
 文化を尊重し合ったり、教育したり、サポートしている  
 お金の援助だけが助けるということでも学びまし  
 た。知識を尊重する事により、バングラデッシュの現在  
 の子供達が「天恵」に恵まれるには、もっとも、豊かで  
 安心して住めるような社会に変わっていかないと  
 思う。

参加動機およびプロフィール

普段は、世界史などの教科を担当しており、常々途上国へ行ってみたくて思っていました。今回の研修で目に、耳に、口に、鼻に、手にしたこと...を、生徒にうまく還元できていればと思っています。

馴染みの無い国バングラデッシュの問題に、生徒は素直に向き合おうとしました。彼女達が長く時や思ってもいない意見が出てきた瞬間、生徒達の力をもっと引き出すことが出来たらと思います。生徒にとっても私にとっても新鮮に感じられる教材をこれからも教員同士、力を合わせて作っていきたいです。

# 教科書から見たバングラデシュ

— 途上国の教科書を読んでみる —

梨子田 喬 NASHIDA TAKASHI

地歴公民科  
岩手県立釜石商業高校

実践教科 現代社会

時間数 5時間

対象学年 1学年

対象人数 83名

## カリキュラム案

### 実践の目的

教科書というのは、その時代、その社会の問題点を映し出す鏡であるといえる。問題があれば、その問題を克服するための方法なり考え方なり知恵なりが教科書において主張されるものである。この授業案では、上述の理由から、現地の小学校の教科書を使用し途上国社会へのアプローチを試みた。

生徒にとって身近なものは、やはり学校である。自分たちと同じように学校で勉強する学生としての視点から、開発途上国を見てみるのも面白いのではないだろうか。生徒自身が受けてきた初等教育と照らしあわせながら、日本と途上国の人の考え方や社会の根本的な違いを感じてもらいたい。そんな思いで授業を実践した。

### 授業の構成

時限・テーマ(ねらい)	方法・内容	使用教材
<b>1時限</b> 開発途上国ってどんな国？ —バングラデシュの場合—	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ビデオ映像を見る(3分程度)。</li> <li>・写真を配布→写真の質問について考察。</li> <li>・配布した写真の解説(スライド)。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・映像・写真パネル(資料1)</li> <li>・スライド</li> </ul>
<b>2時限</b> いざ、バングラデシュの教室へ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・クラスをグループ分けする</li> <li>・教科書から気がついたことを挙げる。</li> <li>・実際教科書を使って勉強をしてみる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・バングラデシュの小学校の教科書(英語・理科) (資料2、3、4)</li> <li>・スライド (資料5)</li> </ul>
<b>3時限</b> 教科書から見たバングラデシュ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・スライドを用いて教科書を分析・解説(講義)</li> <li>・教科書は社会問題の裏返し!</li> <li>・現地の教育事情の説明。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・スライド</li> <li>・バングラデシュの小学校の教科書 (資料6、7、8)</li> </ul>
<b>4時限</b> 教科書どおりの社会を実現させるために	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ビデオ映像を中心に援助活動を紹介(講義)</li> <li>・ODA事業。</li> <li>・青年海外協力隊。</li> <li>・NGOの活動。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・映像</li> <li>・スライド (資料9、10)</li> <li>・算数ドリル</li> </ul>
<b>5時限</b> 教材をつくらう!	<ul style="list-style-type: none"> <li>[英語班] パソコンを使って英単語教材パネル作成。</li> <li>[理科班] 理科教諭の指導の下、理科室において実験写真パネルづくり。</li> </ul>	(資料11)

## 授業の詳細

### 1時間 開発途上国ってどんな国？ ーバングラデシュの場合ー

本時の狙いは二つある。一つ目は、開発途上国の概況を理解すること。二つ目は、これから教時間にわたってふれるバングラデシュという国について、生徒の興味関心を喚起させること。そのために、研修時の映像とフォトランゲージを用いた。

はじめに、バングラデシュの首都ダッカ市内の映像を流した。

#### 映像の内容

路上(リキシャ)→市場→物を乞う子供・物を売る子供→市場の中、野菜や魚を売る人→モスクとアザーン

映像について、①ストリートチルドレン、②バングラデシュの土地と産業(市場で売られていた魚や野菜)の2点について映像の解説を加えた。生徒の感想では、多くの生徒が細い腕で物乞いをする子供にショックを受けたようだ。

つづいて、生徒一人ずつに写真パネルを配布した。パネルは表面には研修時撮影したバングラデシュの写真、裏面には教師からの発問と写真に関するキーワードをあらかじめ記入した。22種類44枚を用意した(資料1)。

周囲の生徒と意見交換したのち、指名された生徒は質問を読み答えた。指名には、スライドに現れた写真と同じ写真を持った生徒が指名を受けるという方法を用いた。

本時解説したキーワードは3つ。資料1で提示した「識字率」のほかには、つぎのような写真を準備し解説した。

「インフラ」(井戸、トイレ、乾燥させた牛のフンの写真、等)、

「貧富の差」(遊園地、スラム、ビルの上から見たダッカ市、農村の学校、私立高校の写真、等)

### 2時間 いざ、バングラデシュの教室へ

#### 補足説明 研修から見た現地教育事情

現地の協力隊員に聞くとバングラデシュの教科書は「内容は意外に充実している」という。確かに、日本の小学校では表面的に終わる学習でも、バングラデシュでは詳しく扱われているものが多い。

ところが、この欲張り教科書についていけないのが現状なのだそう。まず、教育内容が体系化されていない。また、教科書が難しいため、教えるほうも理解しきれていない。慢性的な教員不足のため、小学校教員は中学校修了程度の学力しかない。そのため、極端な暗記主義に陥り、考えさせる授業までは程遠いという。

生徒にしても、多くの家庭で教育に対する理解が十分でなく(子供は労働力)、この現状が30%という留年率(2001年)、25%という退学率(2001年)という数字へ現れていく。小学校を卒業していく生徒でも基礎学力をきちんと習得しているのは全体の1%程度という状況だそう。これでは、いくら教科書の内容が充実していても教育効果は疑わしい。社会に問題が山積していても、その解決を途上国の教育に期待するには厳しい状況にある。

本時の狙いは教科書を通して、バングラデシュと日本の違いを実感すること。クラスをグループに分けて、各グループにバングラデシュの教科書(小学校用英語・理科(資料2,3)とその日本語訳を配布し、グループで意見交換をした。

#### ■バングラデシュの教科書を手にとり、気がついたことを挙げてみよう

- 教科書を何度も使いまわしている様子がボロボロの教科書からうかがえた。
- 中の挿絵はなかなか味わいがある。
- なんか同じことばかりしつこく勉強しているのだなと思った。8ページでmy name is ~を勉強して、22ページでまたmy name is ~を勉強している。

- 文字が読めない人が多い国で使うのに、文字ばかり
- 小学生向けかと思ったら、意外に難しい。本当に、現地の小学生は理解しているのだろうか
- 理科というより保健の教科書だ
- 歯の磨き方なんて、理科じゃなくて家で習うことではないのか？
- 私の初めての理科の教科書は「せいかつ」という教科書だったと思う。外に出て、「花を見てみましょう」とか根っことか泥とかを観察するようなものだったはず。日本の理科の教科書はこんな内容なのに、いきなりメタンガスとか教えられても絶対わかんないと思う
- そういえば理科の教科書の挿絵は全部絵だった。写真はないのだろうか。
- 答えはいろいろあるはずなのに、なんか決めつけというか断定的だ。日本は「考えてみよう」とかあるのに。

## ■バングラデシュの教科書を使って勉強をしてみよう

試みに、バングラデシュの教科書を使って授業を行った。選んだ場所は「英語」5年生用のlesson6「Don't beg」（資料2）小学校三年生の「理科」第7章「迷信を遠ざける科学」の二ヶ所（資料4）。英語は、グループごと分担を割り振って訳を作り、それをつなげた。理科は、全体で教科書を読んで章末問題に取り組んだ。

### ○英語

訳文をつくった生徒から「説教くさい」「道徳の教科書のようだ」「『アラーは物乞いを好まない』というのがイスラム教らしい。」という感想があった。

### ○理科

本文「迷信を遠ざける科学」を読んだ後、理科の教科書の章末問題を生徒と一緒にやってみた（資料5）。このスライドに示したように一題ずつ翻訳を提示した。生徒は、「なんとなく答えはわかるがなにか違和感がある」という様子であった。そして、最後の問題「科学者達はなにをしているか？」に至っては、「どう答えていいのかわからない」と困惑の声をあげる生徒が多かった。

## ■まとめ

「大体どこの国でも勉強の内容は同じなのかなと思ったら、なんだこりゃという感じだった。」というこの生徒の所感が教室全体の雰囲気をよく代弁していた。次時、教科書の違いから、人の考え方の違い、社会の違いへと展開させる。

## 【5時間】教科書から見たバングラデシュ

### ■教科書は社会に対するメッセージである！

教科書の違いを、社会の違いへと展開することが本時の目標である。教科書というものは、その時代、その社会に対して発せられたメッセージとしても読むことができる。2時限にバングラデシュの英語教科書の課文「Don't beg」を読んだが、たとえば、ここからも物乞いの習慣が蔓延する社会の状況を窺い知ることができる。生徒からみれば随分と「説教くさい」内容に感じたかもしれないが、説教をしなければいけない社会があることに着眼させたい。教科書の中から、バングラデシュ社会を窺い知る事ができる部分を集めスライドで写真を見せながら紹介した。

### ○衛生環境と医療の現状

資料6に示した、理科の教科書のなかで池や川の水の汚さについて触れている部分を読みながら、下線部「この水（川・池の水）はよく沸かしてから飲まなければならない」に着目する。文章の裏を返せば川の水を沸かさずそのまま飲んでしまう人もいるようである。なぜ川の水を飲むのか。－上水道が未整備だからである。教科書の別の部分には、川の水を濾過して飲み水にするための方法が紹介されている（資料7）。

また、理科の教科書では身体の洗い方、歯の磨き方から、耳掃除の仕方まで説明されている。日本であれば、こうしたことは学齢以前の段階に家庭で身につけるものであるが、こうしたことまで「理科」として学校で教えている。家庭に衛生面での教育力が無いことが読みとれる。

こういった全体的な衛生観念の低さは様々な病気の温床となる。ところが、十分な医療サービスを提



供することは難しい。医師や設備の不足もそうだが、人々が医学よりも、伝統的な民間療法（迷信に近い）を信頼してしまうところが根本の原因となっているようだ。途上国の一部では、信すべきものは科学より迷信なのである。

### ○増える続ける人口

続いて、(資料8)を見る。バングラデシュは世界でも有数の人口稠密国である。依然として子どもは労働力という意識が根強く、人口増加は止まらない。また、一年間350万人の新生児のうち、130万人が望まれない出産であるというデータがあるように、家族計画に対する意識も低い。そして、これが貧困を生み出す根源的な要因となっている。教科書の中でも(資料8)のように、家族計画の必要性が強調されている。「私たちの国には有り余るほどの人間がいる。」という一文がなにか悲しい。

### 【2時間】教科書どおりの社会を実現させるために

本時では、途上国に対して、各国のNGOや日本政府が行うODAや青年海外協力隊の行う援助活動を理解した。

### ■医療を浸透させるために

研修時に撮影した政府のODA事業により作られた病院の映像を見る。

#### 映像の内容

病院入口→診察→予防接種→待合室→手術室→ベッドと母子→保育器

病院の入り口や待合室に大勢の人がいた。なぜこんなにたくさんの方が利用しているのか？ - 設備の充実した病院が少なく、加えて診療代が無料だからである。人々に医療の価値を理解してもらうために無料でサービスを提供しているという。費用はバングラデシュ政府や日本が負担をしている。また、男性向けの妊娠や育児についての講座を開き、女性が病院へ行きやすい環境作りに取り組んでいる。

### ■より効果的な教育のために

研修時に撮影した青年海外協力隊員（理数科教師）の活動を映像で見してみる。(資料9)

#### 映像の内容

先生の合図→生徒が算数ドリルをはじめる→みんなで答え合わせ→各自記録用紙に点数を記入

何をやっているところだろうか？ 答えが出てから、協力隊員がつくった算数ドリルを教室に提示した。この算数ドリルによって、

- ・応用力がつき問題が解けるようになった→勉強が楽しくなる→出席率が向上する
- ・時間内に問題を解く姿勢が身についた。→何事にも時間を守るという姿勢の育成

「私たちには算数ドリルなんて別に珍しくもないけど、この国には特別なものなんだな。ちょっとでも珍しいものに興味を示して、他の国のものに触れるのは大切だと思った」という感想を記した生徒がいた。

### ■貧困層のための教育 (NGO)

研修時に撮影した貧困層の教育に従事するヨーロッパNGO団体が運営する学校の映像を見る。(資料10)

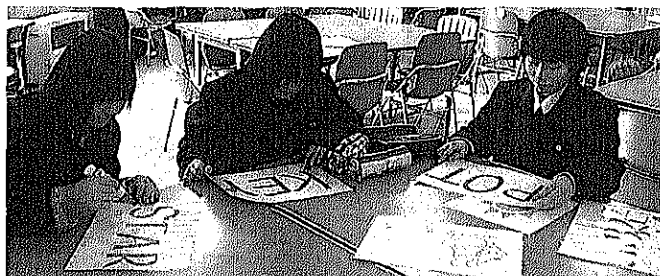
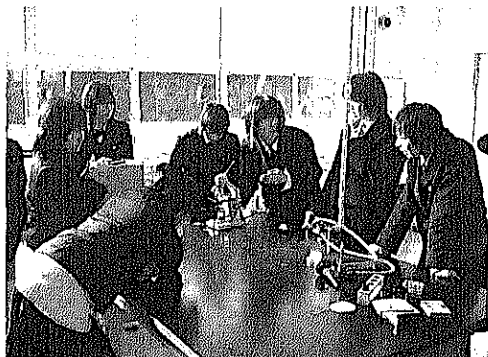
#### 映像の内容

自分の名前を書く少女→ゲーム→歌→踊り

「ジャムンバラ♪～タイランド～ジャムンバラ♪～ザンビア～ジャムンバラ♪～エチオピア～ジャムンバラ♪～ジャパン！…」何をしているところか？ - 日本に「古今東西ゲーム」というものがあるが、これと同様「ジャムンバラ」という掛け声と手拍子に合わせて順番に世界の国を挙げていくゲームをしているところ。文字が読めない子達でも楽しく勉強できるように歌や踊りやゲーム等で工夫した教育活動がおこなわれていた。

### 【3時間】教材を作ろう！

クラスを班ごとに分け、バングラデシュの小学生向けの学習教材を作成した(資料11)。英語班・理科班の指導に当たっては、理科教員の協力を仰いだ。どのようなものを作成するかは、各グループに任せ



作成風景 左：理科 右：英語

た。完成したものは、現地の隊員を通して現地の小学校へ送った。

**[英語班]** 英単語パネルを作成することにした。これであれば、黒板やチョークがなくても使用可能である。反復練習が可能であるし、様々な活用方法がありそうである。

**[理科班]** 生徒の感想の中から鋭い指摘があった。「理科の教科書なのに、写真がない」確かに科学にとって大切なのは確固たる証拠を提示することである。にもかかわらず、実験も行えず写真も見せられない中では、なかなか知識が浸透していかないはずである。そこで教科書の挿絵や教科書の内容に基づいた写真パネル教材を作成した。

## 成果と課題

私たち日本人は「出来上がった社会」の中で生活しているのだと感じる。「出来上がった社会」の中では、価値あるものでも「あたりまえの常識」になって生活のすぐそばにある。そして、私たちはその価値に気がつかないまま、様々な恩恵を受けている。

しかし、日本という「出来上がった社会」の「あたりまえの常識」のなかに、途上国社会を変える知恵がある。途上国に必要なものとは、なにも先端の格別すごい技術ではなく、日本人にとっての「あたりまえの常識」を提供することなのである。

今回の一連の授業の感想を読んでも、自分が受けてきた教育や自分が生活してきた環境の価値を再確認した生徒が少なからずいた。「川の水を飲むな」

「爪を切れ」「病気になったら医者に行け」あたりまえのことを大真面目に語る教科書に、滑稽なものを感じながらも、途上国社会と私たちの社会の違いを実感してくれたようだ。ただ、「日本に生まれてよかった」といった安易な満足に終わった生徒も若干おり、途上国とのつながりを理解するなど継続的にグローバルな視野の育成に努めなくてはいけないと感じた。

最後に、教科書に関して協力頂いたバングラデシュの青年海外協力隊員、研修を共にした諸先生方、授業に協力して下さった本校教諭に記して謝意を表したい。

### 参考文献

加賀谷寛・浜口恒夫「世界現代史Ⅰ0 南アジア現代史Ⅱ」（山川出版社）  
（294頁でバングラデシュの選挙の投票用紙の写真が紹介されている。）

## 資料

## 1 1時間 授業で使ったパネル例



裏

この看板は、どんなことを  
呼びかけているのでしょうか？

Keyword 識字率

女性が黒板に字を書いている。書かれたベンガル語は「自分の名前は自分でサインをしよう」という意味である。看板右下の赤い字で書かれた文は、「文字を覚えて良い社会をつくる」と書いてあり、識字の大切さを訴えている。地位の低いイスラム社会の女性が呼びかけているところがポイント。



裏

この張り紙は何でしょう？

- ①選挙ポスター
- ②指名手配
- ③商店の広告

Keyword 識字率

正解は、①選挙ポスターである。傘やコーヒーカップの絵が各党派候補者のシンボルマークになっている。文字を読めない人が多いので、党派や候補者にシンボルが与えられ、有権者は投票用紙のシンボルに丸をつけて投票する。

## 資料

## 2 2時間 小五、英語の教科書「Don't beg」

LESSON SIX  
Do Not Beg

A Read.

One day a poor man came to Prophet Hazrat Muhammad (Sul). He begged for money. He said, "Oh Prophet! I am very poor. I don't have any food in my house. My wife and children are hungry. I don't have any money. I am helpless. I need some money."

The Prophet (Sul) looked at the man. He was strong. The Prophet (Sul) felt sorry for him. But he did not give him any money. He asked the man, "What do you have in your house?" The man said, "I have a blanket and a bowl." The Prophet (Sul) said, "Bring them to me." The man left. After sometime he returned with the blanket and the bowl.

The man said, "Oh! Prophet (Sul), thank you for your advice. I don't beg any more. I cut wood from the forest. I sell the wood in the market. I earn money. My wife and children are not hungry now."

The Prophet (Sul) said, "That's very good. I'm glad. Work hard. Earn your bread. Never beg. Allah doesn't like beggars."

C 1 Look at the table. Note the two forms.

Present	Past	Present	Past
thank	thanked	earn	earned
cut	cut	take	took

C 2 Match the questions and answers. Practice asking and answering the questions. The short answers have been underlined.

## 【要約版】第6課 物乞いをするな

ある日貧しい男が預言者のところに来てきた。「妻と子がお腹を空かせています。私にはどうしようもありません。お金をください。」預言者はその男に尋ねた。「お前の家には今何がある?」「ボールと毛布です」預言者は男に持ってくるように言った。

預言者はボールと毛布を売ってあげた。預言者は男にお金をわたし、家族に食べ物を買ってあげるように言った。残りのお金を渡して「斧を買いなさい、森から木を切って市場で売ってお金を稼げなさい。物乞いをしてはいけません。」男はお金を受け取ると去っていった。

一カ月後、男が預言者のところに戻って来た。「今は大丈夫か?」と預言者が聞くと、「預言者様、助言ありがとうございます。もう物乞いはいしません。今はもう妻子は飢えていません」預言者はこういった。「それはよかった。一生懸命働き、日々の糧を稼げ。アラは物乞いを好まないのだ。」

資料

3 2時限 理科の教科書



資料

4 2時限 小三、理科の教科書より

【教科書の要約】第7章 迷信を遠ざける科学

人は昔とても無力だった。災害がなぜ起きるのか、知識に確信がなかった。そこから迷信が生まれた。伝染病の原因がわからなければ、天命のせいにした。暗闇の竹林に音がすれば、幽霊のせいにした。夜の池に光が見えれば、人魂だと騒いだ。このすべての間違った考えや暗闇への信仰を迷信という。

しかし、人は知識を得た。いろいろなことを観察し実験してわかった人々を科学者という。科学者は、すべてのもののことの原因を知りたがっている。

すべてのことには原因がある。災害はすべて自然現象であるし、人魂はメタンガスのせいである。伝染病の原因は細菌である。顕微鏡で科学者が確認した。

迷信は人々に誤った考えを与える。迷信のために人々は何も無いのに怖がる。

科学は人々を間違った恐怖から救済している。

資料

5 2時限 授業で使ったスライド

ক. সঠিক উত্তরটিতে ঠিক (১) চিহ্ন দিন।

- ১) কলকাতা শিল্প অঙ্গণে কোনটি ছিল?
  - ক) কুম্ভকারী শিল্প
  - খ) সূত্র শিল্প
  - গ) কুম্ভকারী শিল্প
  - ঘ) সোণশিল্প শিল্প
- ২) বিজলীভুক্ত কি কলকাতা?
  - ক) উদ্ভিদিক পুষ্টি কলকাতার জন্য
  - খ) কলকাতার জল কলকাতা
  - গ) কুম্ভকারী শিল্প কলকাতার
  - ঘ) বই পড়তে সহজ কলকাতা কলকাতা
- ৩) কুম্ভকারী শিল্প
  - ক) এক ধরনের কুম্ভ
  - খ) কলকাতার কলকাতা
  - গ) কলকাতা
  - ঘ) কলকাতার কলকাতা
৪. কুম্ভকারী শিল্প
  - ১) কুম্ভকারী শিল্প কলকাতার জন্য
  - ২) কুম্ভকারী শিল্প কলকাতার জন্য
  - ৩) কুম্ভকারী শিল্প কলকাতার জন্য
  - ৪) কুম্ভকারী শিল্প কলকাতার জন্য

← FIRST QUESTION

### 第一問

むかし、ひとびとはどうだったか

① とても勇敢だった

② 無力だった

③ とても賢かった

④ 病気を治してくれた

資料

6 3時限



川で身体を洗う男性の写真

理科の教科書より抜粋した部分の要約


池、川、運河の水、そしてポンプ式井戸から私たちは水を得ている。

私たちは同じ水で水を浴び、服を洗い、皿を洗い、そして牛・ヤギの水浴びがされている。だから、この水は汚い。この水を飲むといういろいろな病気にかかるかもしれない。池、川、運河の水は純粋ではない。この水はよく沸かしてから飲まなければならない。(小学校用理科)

資料

7 3時限 理科の教科書より濾過・蒸留の説明の挿絵

ছাঁকান বা খিড়ানোর পদ্ধতিতে পানি পরিশুদ্ধ করা যায়। তবে এ পানি পান করার জন্য নিরাপদ নয়। কারণ এতে রোগজীবাণু মিশে থাকতে পারে। এ পানিকে ১০-১৫ মিনিট ফুটিয়ে জীবাণুমুক্ত করা যায়। ফুটানো জীবাণু মরে যায়। ফুটানো পানিকে ঠাণ্ডা করে হেঁকে পান করা যায়।




চিত্র ১৬ঃ ফুটানো পদ্ধতিতে পানি বিশুদ্ধকরণ

資料

8 3時限 理科の教科書より

家族の数が多くなればどうなるか？家族にたくさんの人がいたら、生活するために沢山の部屋が必要であり、たくさんの部屋がなかったら一つの部屋にたくさんのひとが密集してすまなければならない。家族にたくさんの人がいたら、たくさんの食べ物が必要とされる。たくさんの食べ物を買うことができなければ、食べ物の不足が生じる。その結果、成長できなくなり家族の人はいろいろな病気にかかるかもしれない。…「私たちの国には有り余るほどの人間がいる。」

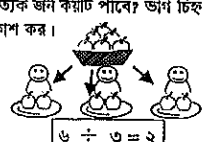
資料

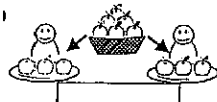
9 4時限 算数ドリルに取り組む生徒と青年海外協力隊員のつくったドリル

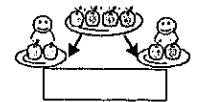


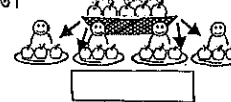
ডুডু ভাগ (ভিডিও ১) পাঠ্য নম্বর: /৩

\* আপেলগুলিকে সমান ভাবে ভাগ করলে প্রত্যেক জন কয়টি পাবে? ভাগ চিহ্ন দিয়ে প্রকাশ কর।



১) 

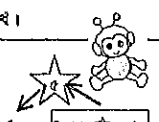
২) 

৩) 

৭০ ভাগ (ভিডিও ৫) পাঠ্য নম্বর: /৭

\* ভাগফল লিখ।

ভাগফল = ☆



$20 \div 8 = \star$       $8 \times \star = 20$

$18 \div 8 = \star$       $8 \times \star = 8$

$24 \div 8 = \star$       $8 \times \star = 24$

$36 \div 8 = \star$       $8 \times \star = 36$

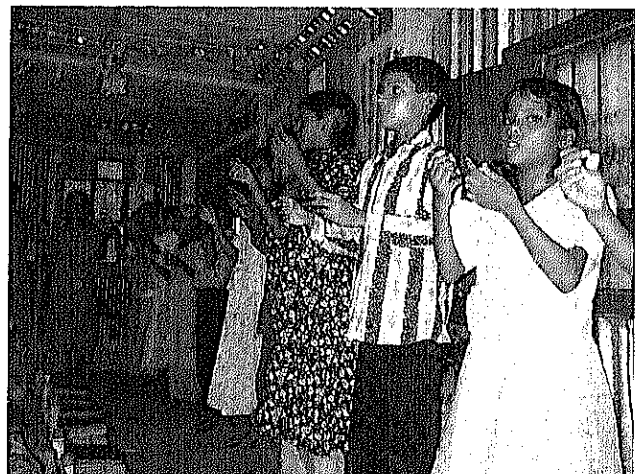
$84 \div 8 = \star$       $8 \times \star = 84$

$64 \div 8 = \star$       $8 \times \star = 64$

$96 \div 8 = \star$       $8 \times \star = 96$

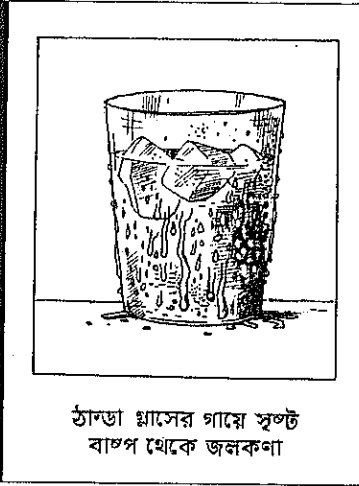
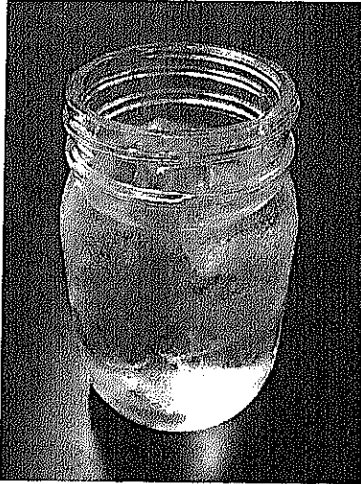
資料

10 4時限  
NGOの運営する貧困層のための学校で世界の国を挙げるゲームをしている子ども達

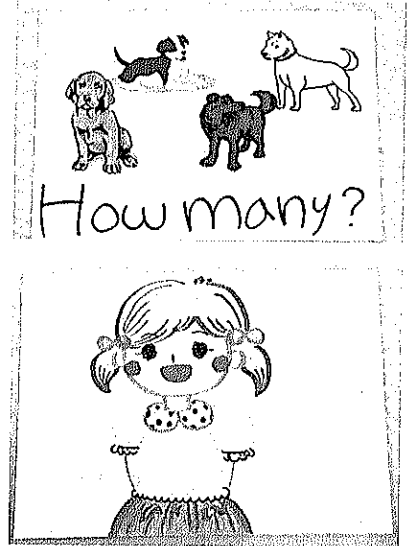


資料

11 | 5時間 バングラデシュの小学生向けに作成した学習教材



実際につくった教材 上：理科 右：英語



参加動機およびプロフィール

以前中国の高校で日本語を教えていたことがありました。そのとき、技術を伝えるためには精神を伝えなくてはいけないと実感しました。日本語という技術をいくら習得しても、日本的な精神（たとえば、謙虚さ・緻密さなど）を理解できなければ日本人と円滑なコミュニケーションやビジネスができないからです。日本に戻って、高等学校の教壇にたつようになり国際協力・技術援助について触れるたびに「日本的な精神はどこまで途上国に届いているか？」という問題について考えるようになり、これが研修に参加する動機になりました。

カメラを向けると屈託のない笑顔で「俺を写せ」と大騒ぎをするバングラデシュ人たちを見たとき、日本人が忘れていた素朴さ・純粋さを感じました。途上国に日本的な精神を学んでほしいと思う一方、私たちが途上国から学ばなくてはならないと考えさせられました。

# バングラデシュは本当に貧困なのか？

—授業と試験を通じて客観的にバングラデシュを理解する—

小野徹生 ONO TETSUO

地理歴史  
埼玉県立所沢中央高等学校

実践教科 地理B

時間数 9時間

対象学年 1学年

対象人数 120名 (3クラス)

## カリキュラム案

### 実践の目的

国際協力というテーマは、一般的に女子の方が関心が高く、男子に低い傾向がある。本校は共学校であり、男女生徒同士が協力して調べたり発表することで、生徒全体に国際協力への関心を高めさせることを目指して授業を行った。また、世界史や日本史の授業では時間的余裕がないためになかなか習得しづらい“統計資料をしっかり読みこなす能力”や、“研究したことをわかりやすく発表する能力”を伸ばすことも、地理歴史の学習指導計画の中で1年次に学習すべき課題として、今回の授業の中に取り入

れた。

さらに、授業計画を立てるにあたり、私の主観を前面に出さないことを意識した。私の授業によって生徒がバングラデシュに対してマイナスのイメージを抱くだけになったり、ただ「かわいそうな国」と思うようになったら、その授業は失敗だったといえよう。授業の中では、マイナスもプラスもない白紙の状態でバングラデシュを理解してもらいたいと考え、最初から私の体験談等はせずに、偏った先入観を与えないような授業を目指した。

### 授業の構成

時間・テーマ・ねらい	方法・内容	使用教材
<b>1 2時間</b> バングラデシュの日常を知る① (フォトランゲージと研究発表会)	(1) バングラデシュで撮影した写真を生徒に1人1枚ずつ配り、写真に共通のテーマをもつ生徒同士が集まりグループを作る。 (2) グループ内で写真を見せ合い、お互いの写真から読み取れることや疑問点をプリントにまとめる。 (3) 写真から読み取れることや疑問点をグループ毎に発表し、クラス全体に写真を紹介する。他のグループはその発表から学んだことや感じたことをプリントに記入し、発表に対して5段階評価をする。	・撮影した写真 ・プリント「写真からバングラデシュを読み解こう」 (資料1)
<b>3 4時間</b> バングラデシュの日常を知る② (フォトランゲージと研究発表会)	前回と同じ形態で授業を行なう	・撮影した写真 ・プリント「写真からバングラデシュを読み解こう」 (資料1)

時間・テーマ(何らい)	方法・内容	使用資料
<b>6～7時間</b> バングラデシュは本当に貧困なのか？ (グループ毎に壁新聞の作成)	具体的な統計資料を活用して、教育・衛生・食糧・労働など様々な側面からこの国の貧困の実態を考察する。	・プリント『バングラデシュは本当に貧困なのか？』(資料2) ・『貧困プロフィール・バングラデシュ人民共和国』(国際協力銀行・2002年2月) ・その他各種統計資料
<b>8時間</b> バングラデシュの深刻な実態を知る①	(1) パワーポイントを使用して写真やグラフを紹介し、解説する。 (2) 今までの学習の振り返り。	・パワーポイント (資料3)
<b>9時間</b> バングラデシュの深刻な事態を知る② (壁新聞をもとにした試験問題)	(1) バングラデシュの貧困状況をグラフで示し、そこから読み取れるこの国の実態を選択式の問題にして解答させる。 (2) バングラデシュに関する新聞記事を読み、その記事に対しての意見や我々に何ができるのかを問う。	・中間試験 (資料4) ・各班が模造紙に作成したグラフなど ・連載「虐げる」岩手日報(平成15年8月19日付)

## 授業の詳細

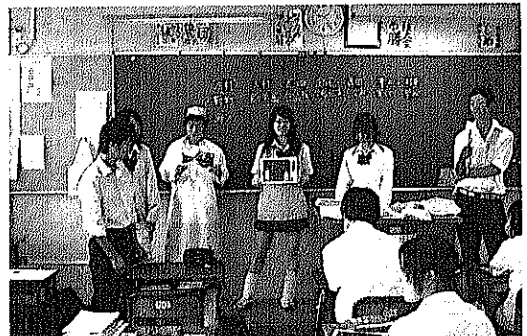
### 1～2時間 バングラデシュの日常を知る①

この一連の授業では、先にフォトランゲージを行い、男女混合グループでの共同作業を多く導入した。共同作業の手順は以下のとおりである。

- (1) バングラデシュで撮影した写真を1人1枚配る。各自、自分の写真と他の生徒の写真を見比べ、どんな共通テーマがあるのか考える。テーマが共通した生徒が集まってグループをつくり、各班5名、8グループに分かれた。こちらから共通テーマは教えないが、どうしてもわからないときだけヒントを教えた。共通テーマは、洪水、動物、貧困、学校、食べ物、近代的な施設、車など、22種類を用意した。
- (2) 共通テーマごとのグループ内で写真を見せ合い、お互いの写真から読み取れることや疑問点などをプリント『写真からバングラデシュを読み解こう』に記入する(資料1)。
- (3) 写真から読み取れることや疑問点などをグループ毎に発表し、クラス全体に写真を紹介する。他のグループは、その発表から学んだことや感じたことを記入し、そのグループの発表に対して総合的な5段階評価をする(生徒同士で評価しあう)。

### 生徒の反応

各グループとも他のグループを意識し、熱心に取り組んだ。発表も和やかな雰囲気になり、「イスラム教」という共通テーマを選択したグループの男子は礼拝のときの正装をして発表するなどして盛り上がった。現地の人々の笑顔や明るい雰囲気に、バングラデシュという国に対してポジティブに受け止める生徒が多かったようだが、衛生面や交通面の遅れを指摘する生徒が多かった。生徒同士で発表の内容の濃さや態度を評価する方法をとったので、面白い批評や鋭い指摘も多数見られた。



発表の風景

### フォトランゲージの感想・疑問点など

#### 学校

- ・教室に電気が無くとても暗い
- ・靴を履いている子と履いていない子がいる



・小学3年生ぐらいで退学とか信じられない

#### ■貧困

- ・貧しい子供がまるで日本の野良猫以下の生活（家なし・食事が安定せず・親なし）をしているのが信じられない
- ・「かわいそう」と思ってもすぐにお金をあげてはいけないことを知った

#### ■食料品店

- ・食器洗いかバケツでびっくり
- ・気候が違うのに野菜が日本とほぼ同じで不思議
- ・食糧が不足しているように思えない

#### ■交差点

- ・男性同士が手をつないで歩いているのにはびっくり
- ・信号があるのに使われていない
- ・ものすごい混雑で信じられない

#### ■イスラム教

- ・モスクの屋根は丸いことがわかった
- ・足を洗う噴水みたいな場所に女性がいないのはなぜ？

#### ■近代的な施設

- ・意外と高い建物やビルが多くてびっくり
- ・高級店やレストランにはガードマンがついている
- ・貧富の差が激しすぎる

#### ■子ども達

- ・一人ひとりがいきいきしていた
- ・みんなパンツしか着ていなくて靴も履いていない
- ・みんな笑っていた

### 【6～4時間】 Bangladeshの日常を知る②

前回と同じ形態で授業を行なう。二度発表を行なうことで、各クラスとも、16種類のテーマ・80枚の写真をじっくり見ることができる。また、前回よりも発表の仕方も慣れて上手になる。

### 【5～7時間】 Bangladeshは本当に貧困なのか？

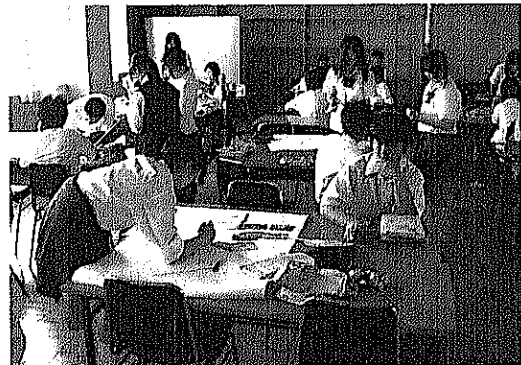
市場には豊かな食材が並び、高温多湿の気候下のBangladeshは、写真だけでは最貧国の一つという想像がつきにくい。具体的な統計資料を活用して、教育、衛生、食糧、労働など、様々な側面からこの国の貧困の実態を考察する（資料2）。本時では次の手順で共同作業を行なった。

- (1) 男女混合4名の班を10班つくる。
- (2) あらかじめ設定した、教育、衛生、食糧、労働

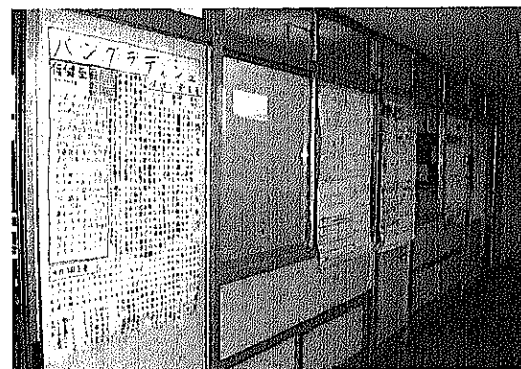
など10の側面を、各班が重ならないように1つずつ選択する。

- (3) 各班が選択したBangladeshの貧困に関する様々な側面を、資料を参考にして模造紙にまとめる。選択した側面において、Bangladeshの人々は貧困であるといえるのか否かを統計資料から具体的に示し、貧困であると判断できる場合には、それに対する解決手段を考え、模造紙の中で提示することを原則として作成する。統計資料などはグラフにするなどしてわかりやすくまとめる。
- (4) 完成した模造紙は、文化祭で公開するために廊下に掲示する。

壁新聞にはフォトランゲージに使用した写真を貼るなどしてきれいに仕上げる班が多かった。反省点を挙げるとしたら、文化祭直前の慌ただしい時期と重なっていたのでじっくり準備できなかったことである。時間をかけてじっくり計画を立てさせた方がもっとよい作品になったと思う。



作業風景



壁新聞

**8時限**  **Bangladesh の深刻な事態を知る①**

- (1) パワーポイントを使用して、それぞれの写真などについて、教師自身が見聞きしたことを解説しながら紹介する (資料3)。
- (2) 今まで学習してきたことを振り返り、以前までと Bangladesh に対する見方が変化したか、変化した人はどのように変化したのかを考える。

**9時限**  **Bangladesh の深刻な事態を知る② (壁新聞をもとにした試験問題)**

作業学習に多く取り組んだ学期の試験問題は作成しづらい、というのは、教師にとっていつも頭の痛い悩みである。そこで、5〜7時限で各自が取り組んだ作業の結果を試験問題に作り変え、選択式の問題にした (資料4)。各班で作成した壁新聞は全て違う側面を扱っているため、他のグループの成果をフィードバックし、全体にその結論を紹介する必要がある。生徒は10ある側面のうち1つの側面しか取り組んでいないが、残りの9の側面については試験問題の中で紹介し、生徒は解答するうちにその統計資料をじっくり読みとろうとすることになる。

試験問題では、『貧困プロフィール』に掲載されている Bangladesh の食糧摂取量・GDP・就学率などの各側面からの貧困状況をグラフ化し、そこから読み取れるこの国の実態を選択式の問題にして解答させた。グラフ化された資料の読みこなしは、社会の授業のみならず、日常の新聞記事を読みこなしことにも役立ち、大学入試や公務員試験などで有効であるために試験に出題した。この問題では他の問題よりも正答率が高く、各自が実態をよく理解してくれていることが証明された。

試験では、もう一つ、12歳くらいの少女が『教養が無いために売春しか生きていく手段がない』と将来を悲観して話すという新聞記事を読み、この記事に対する意見と、我々には何ができるのかを述べる問題も用意した。この問題では、1年生のうちから小論文に慣れることをねらいとした。

また、少女の記事をとおして生徒自身も生き方を見つめなおし、他者を思いやる生き方について考える契機とすることができた。そして、なぜ国際協力が必要とされているのか、という根本的なことを具体的に感じさせることができた。

**成果と課題**

この試験後の授業で、東ティモールの独立を扱い、人々の協力なしに独立が成し遂げられなかったということを紹介した。さらに、東ティモールで国際協力を行っている地元の大学生を招いて授業をし、生徒達に、『自分と3歳ぐらいしか年齢の変わらない人

ちが世界でこんなに活躍している』ということを実感させ、刺激を与えることができた。将来、国際協力のみならず、一連の授業を通じて「他者のために生きる」ことの素晴らしさを抱いて社会で活躍してくれたら喜びこの上ない。

**授業で使った資料・教材の入手先**

『貧困プロフィール Bangladesh 人民共和国』  
国際協力銀行 <http://www.ibic.go.jp/japanese/oec/environ/hinkon/>







# 多面的な理解と 探究学習へのアプローチ

## ーバングラデシュを通してー

<b>高松美紀</b> TAKAMATSU MIKI 国語 東京都立九段高等学校	実践教科	総合的な学習の時間
	時間数	8時間+課外活動
	対象学年	1年生+2,3年有志
	対象人数	14名+10名

### カリキュラム案

#### 実践の目的

本校では語学人文コースが設置されていることもあり、語学や国際関係への意識が高い。しかし、英語圏（欧米）に比して、他の文化圏への関心は高いとはいえず、考える機会も少ないように思われる。いわゆる開発途上国に対しては、「貧しい」「かわいそう」と、自分達の生活と乖離したところでステレオタイプ的なイメージで捉えている向きもある。

今回は、直接バングラデシュで視察・体験する機会を頂いたことを契機に、バングラデシュを取りあげ、ひとつの国が持つ様々な面や問題を取りあげることで多面的なものの見方を養い、また、自主的な探究学習へのアプローチを試みた。

教材としてのバングラデシュは生徒のやや偏った「貧しい開発途上国」「イスラム文化」というイメージに確かな具体性を持たせ、普遍的な国際的課題への導入として、魅力的な国と考える。

主なねらいは以下の通りである。

- I 「国」を多面的に捉え、内在する多様性や問題を認識する。
- II 自ら問題意識を持って、主体的に地球的な課題について考える。
- III 発表・ディスカッションなどを通して考えを深め、表現力を高める。

#### 授業の構成

時間・テーマ・ねらい	方法・内容	使用教材
<b>1時間</b> 導入1 バングラデシュ概要	(1)ビデオ視聴やパネルを交じえてバングラデシュの概要を紹介し、バングラデシュの人々の生活などを考える。 (2)夏のレポートの出題。	・ユネスコより借用したパネルとビデオ ・教員作成プリント
<b>2時間</b> 導入2 バングラデシュ研修報告	(1)バングラデシュ概要を軸に、視察で得た情報を加え、地理的特徴や風俗習慣、問題などを視覚的に紹介する。 (2)学校の様子や教育における問題点などを取り出して紹介する。	・研修で得た写真や資料をもとに作成したパワーポイント ・民芸品、衣装等 ・アジア初のノーベル文学賞を取ったタゴールの詩
<b>課外</b> 東京ジャーミイ・JICA東京訪問1	(1)東京ジャーミイ（モスク）見学。イスラムについて講義を受ける (2)JICA東京にて、JICAの活動概要の講義を受ける。 (3)バングラデシュからの研修員（土木・建築）3名との交流（主に質疑応答・ディスカッション）。	

## 授業の構成

時限・テーマ・内容	方法・内容	使用教材
<b>⑨時限</b> 活動ミーティング	(1)今後の「総合的な学習の時間（国際理解）」活動の方針・方法を話し合う。 (2)パワーポイントの内容についてディスカッション。 (3)次回からの発表者4名を決める。	
<b>⑩課外</b> 東京ジャーミイ・JICA東京訪問2	(1)研修員3名（前回と同じ）との交流 (2)JICA東京訪問。食堂にて研修員と一緒に食事 (3)東京ジャーミイ礼拝見学	
<b>⑪4～7時限</b> ディスカッション	生徒発表A 「ストリートチルドレン」 バングラデシュ・ダッカでの暮らし  生徒発表B 「少数民族と人権問題」 失なわれていく言葉と文化  生徒発表C 「バングラデシュの女性」  生徒発表D 「女子教育」	
<b>⑫8時限</b> 振り返り	(1)前回の発表を受けて、イスラムの学校についてのビデオを視聴後ディスカッション (2)バングラデシュ学習の感想記入	ビデオ「NHKアジアの教育」より

## 授業の詳細

### ①時限 導入1 バングラデシュ概要

#### 1. バングラデシュについての概要説明

ユネスコより借用した『世界寺子屋運動』のパネルとビデオ、教員が作成したプリントに基づいてバングラデシュの概要を説明した。生徒は、この時点では必ずしもバングラデシュに強い興味を持った様子は無かった。『寺子屋運動』のビデオでは、識字教育援助の重要性がわかりやすかったが、『貧しい』イメージが強くなってしまった気がする。

概要説明の後、今後の学習指針を説明した。生徒達はバングラデシュをケーススタディとして、各自が興味を持った分野によってグループに分かれ、国の様々な側面や問題を考えた。

#### 2. 夏のレポートの出題

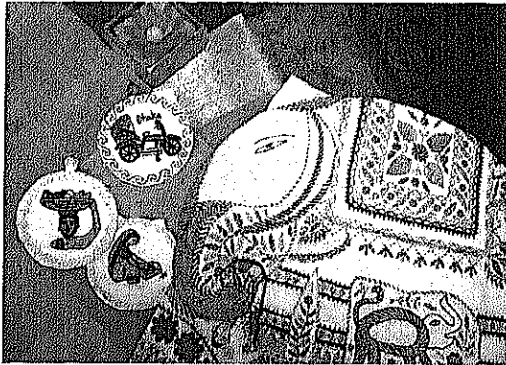
1時限と2時限の間には夏季休業が入る。この夏季休業を利用して、バングラデシュについて各自好きなテーマでレポートを書く『夏のレポート』を出題した。

### ②時限 導入2 バングラデシュ研修報告

#### 1. パワーポイントによるバングラデシュの概要説明

パワーポイントを用いてバングラデシュの概要を説明した（資料1）。生徒のバングラデシュに対するイメージが「貧困」「不衛生」「援助対象」などに偏らないように、生き生きとした生活、美しい田園風景、近代的な地域や設備の充実した私立の学校など、多様な側面を見せるように留意した。

## 2. ノクシカタ（手刺繍製品）や絵本、民芸品・民族衣装などの紹介



### 生徒の反応

- ・都市は高層ビルなんかあって、思ったより発展してて驚いた。
- ・学校によってぜんぜん様子が違う。貧富の差が激しい。
- ・子どもがカワイイ。キラキラしている。
- ・不衛生なところもあるが、きれいな風景もある。
- ・ムスリムってナゾだけど新鮮。

### ③時間 活動ミーティング

#### 1. 生徒の意見や本音を聞き、今後の活動方針を確認する

- ・「グループ学習は、みんな暮らしが違うし、部活もあってムリ！」⇒個人発表のスタイルとした。
- ・「何でバングラデシュなの？」⇒単にバングラデシュについて知ることが活動目的ではなく、そこから見える課題について考えよう、ということを改めて提案した。

#### 2. ディスカッションを通して問題意識を高め、課題発見につなげる

前回パワーポイントを見て生徒が挙げた問題の中から、特に興味を示した就学率の問題を取りあげた。

（※教師の誘導、生徒の発言）

##### \*なぜ就学率が低いのか？

- ・学校が無いから
- ・学校が遠いから

##### \*では学校があれば行けるの？

- ・お金が無いから授業料とか文房具代が払えない
- ・学校がやだから

\*一般の学校での中途退学の多さ、教育条件や教授法の悪さを紹介。

- ・家が貧乏で働かなきゃいけないから
- ・周りの人も行かないから
- ・行ってもどうせ農民になるから（偏見？）
- ・親が行かせてくれないから

\*行く意味を見つけれないんだよね。親が？

- ・親も本人も
- ・女の子は行かせてくれないし

\*なんで？

- ・だいたいそう。それにさっき女子は（就学率が）低いうて書いてあった。

\*「…（しまった。見せちゃっていた）何でなのか、今度考えよう…」

- ・親に勉強って大事だって思わせないと
- ・親だけじゃなくてその社会が思わないと

\*成人教育やNGOの試みなどに触れる

\*なんで勉強は大事なの？字が読めないと困ることは？

- ・大学にいけない
- ・いい仕事に就けない
- ・ずっと貧乏
- ・物を買ったり売ったりするときにだまされるんじゃない？
- ・本とか読めない
- ・自分で考えたりするのは大事

\*他に政策や権利に関する情報が正しく入ってこないこと、薬のラベルなどを読めずに誤用したり、保健衛生の情報が伝わらない危険性などを補足説明した。

#### 3. 発表者の決定

生徒の興味が具体的になってきたところで4名の発表者を決める。発表者に対しては、テーマ設定、構成、情報の集め方、レジュメの書き方、資料の扱い方などを昼休みや放課後を利用して個別に指導した。具体的な指導内容は次に示したとおりである。

##### ① テーマの設定

- ・夏のレポートの中から問題意識を感じるテーマを取り出す。
- ・これまでのパワーポイントやビデオ、ディスカッションの中から、テーマに関連して問題意識を感じるものを取り上げる。

##### ② 構成・情報・資料の集め方、レジュメの書き方

- ・これまでのレポートはインターネットからの引用と主観的な感想に終始しがちであることを指摘し、



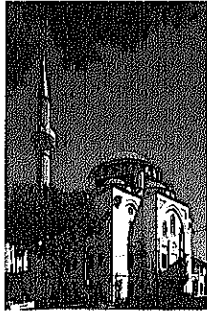
必ず考察を加えることを強調した。

- ・テーマに対する問題意識と考察が明確な発表構成につながる調べ方を指導した。

## 【取材】 東京ジャーミイ・JICA東京訪問

東京ジャーミイおよびJICA  
東京を有志で訪問した。

- ・東京ジャーミイは日本最大のモスクである。事前に予約をいれて説明を受けることができた。
- ・JICA東京ではバングラデシュからの研修員3名（モハメッド・リアクアト・アリさん、モハメッド・イクバルさん、モハメッド・レザウル・アラムさん）との交流が実現した。



### 生徒の感想

○来ている外国の人たちは選ばただけあって、目の輝きが違った。やはりどこの国の人でも目的があると違う。イスラムではお祈りしたお肉じゃないと食べられないというのは初めて聞いた。様々な国の人がいる所では食べ物にも配慮しなければ。

○バングラデシュの方との交流は、机を円にして話してからも、本当は緊張していて全然発言できないでいました。話した内容はとても面白かったです。けれど今、学習を終えて考えてみると、聞いているだけではダメだと思います。恥ずかしがっていてもなんにも始まらないし、自分がより楽しく深く話をするには、自分の意見を持って話に入っていないとダメだと思いました。

後で、一人の方が「いつ結婚するの?」とか「ボーイフレンドはいるの?」と話しかけてくださって、聞かれる

内容が私のお父さんがよく私に聞くことに似ていて、バングラデシュではパパなんだよなあ、と思いました。結婚の話はとても面白かったけど、私は許嫁とかは嫌だなあ。

○モスクはきれいで感動しました。なんだか神秘的な気分になりました。アラベスク模様は、実際に見て本当にすばらしいと思いました。

文字があんなにきれいな装飾になっていることに驚きました。予言者の言葉はすごく奥深いことを言っていると思いました。

コーランは歌みたいでとってもよかったです。想像と全然違っていました。イスラムは智を重視していて、宗教を強制したりしないと聞いて、印象が変わりました。

## 【4〜7時限】 ディスカッション

生徒のディスカッションの展開（Cの発表を例に）

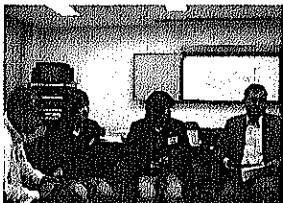
「バングラデシュで法律や憲法で決められたことが守られないのはなぜか? 女性に訴える勇気や意欲がないからではないか。」という発表者の考察に、以下のように議論が展開。

- ・少し前の日本もそうだった。
- ・サービス残業も禁止されているけど、会社じゃクビになるから言えないのと同じ。
- ・例えば、訴える方法を知らないんじゃないか。制度自体あるって知らないと思う。
- ・警察とか訴える相手も信用できないのかもしれない。
- ・法律ができて、社会が変わらないと、ダメなんだと思う。

\*「答え」は出さず、それぞれが考え、意見を出し合うことに重点を置いた。

\*「どのようにすればよいか」は今後の課題へ。女性のエンパワーメントを取りあげる予定。

### 交流のひとコマ



「結婚」について。「都市じゃダウリー（持参金）はないよ」「嫁姑問題? そりゃ世界普遍の問題さ!」爆笑。



「あれ何?」「今ラマダーンだからね。ムスリムの人の朝食は別にランチバックみたいになっているの!」



「名前が3人ともモハメッドさんなのはなぜ?」イスラムの風習などについて詳しく伺う。後で一緒に東京ジャーミイへ。



「ちょーキレイ!」アラベスクやイスラム建築の美しさに圧倒される。カリグラフィの言葉に感心。「コーランって歌みたい。」

生徒の感想

【発表者】

- ・調べることがすごく好きになった。
- ・自分でいうのも変ですが、発表はよかったです。みんながたくさん意見を出してくれたので楽しかった。たくさん意見を聞くことが出来たし、様々な視点から見られたのでよかった！
- ・他の人がとても詳しく調べていて、自分の調べることに対しての意識を反省した。
- ・自分の意見を持てるって大切なことだと思った。



発表する生徒

【参加者】

- ・質問すると、納得できるような応答をしてくれるからスゴイと思った。情報の山からすぐに答えを見つけれられていたのが、アンビリイバボー！！でした。
- ・同じように学習してきた人たちと思えない！きっと見えないところで頑張って努力していたんだと思う。自分も頑張ってみる気になった。
- ・レジュメの構成はよくまとまっていて、いいたいことがよく伝わってきてすばらしいと思った。

【3時間】 ふり返り

1. ビデオ鑑賞

(NHK「アジアの教室」インドネシア「プサントレン」)

寄宿学校「プサントレン」の女子のクラスでの授業で「イスラムの教えは女子教育を否定していない」旨を教師が語るシーンを見せた。これは前回の発表が「女子教育が遅れているのはイスラムの教えのせ

■4～7時間 ディスカッションの内容

生徒	生徒	内 容	発表者の感想
A	「ストリートチルドレン～ハングラデシュ・ダッカでの暮らし」	ダッカにストリートチルドレンが多数いることに興味。その現状やストリートチルドレンができる原因、支援としてNGOの活動（ストリート・スクール/ドロップインセンター）等を紹介。両親の暴力や離婚などで自ら家出をしてストリートチルドレンになる子どもも多にいる。政府やNGOの支援はまだ不足。寝る場所や勉強でなく、親の愛情が必要なのは私達と同じではないか。	初めストリートチルドレンという、家も親もない可哀想な子どもというイメージでしかなかったが、私達と同様、愛を一番必要としているとわかった。初めての発表だが好評で嬉しい。
B	「少数民族と人権問題～失われていく言葉と文化」	ハングラデシュに少数民族がいることに興味。少数民族の人口や宗教などをそれぞれ調べ、チッタゴン丘陵地の少数民族の問題（土地を巡る弾圧・虐殺や言語の問題）を紹介。少数民族はそれぞれ独自の言葉を持っているが、政府がベンガル語の使用を基本とし、学校でもベンガル語を使う。独自の言葉を読み書きができる人がいなくなってきた。少数民族の独自の文化や言葉はアイデンティティーに関わる深刻な問題だ。	民族問題は資金援助だけでは解決しない。互いに理解し合うにはどうしたらよいのだろう。今回で調べたり勉強するのがすごく好きになった。発表が納得いかず口惜しかったので、また他のテーマで発表したい。
C	「ハングラデシュの女性」	ハングラデシュでは早婚の女性が多いことに興味。女性を巡る結婚・生活・出産・教育・社会活動などを報告。ダウリー制度による弊害や女性の識字率の低さ、労働条件の悪さなどを指摘。法律では女性の差別は禁止され、女性も裁判所に訴える権利があるのに、差別は依然としてある。女性自身の力でハングラデシュを切り開いて変えていく必要がある。	女性を差別している国と思っていたが、守るための法律や国家政策があり、現首相も女性だと知って驚いた。私の発表にみんなが意見をくれて嬉しかった。
D	「女子教育」	ハングラデシュでは女子の就学率が低い。かつての日本もそうだったが、一応は男女平等に近づきつつある。イスラム相統法やバルダの規制などの特徴を紹介。女性が従順でなくてはならないとする社会や価値観が女性達の圧力になっているのでは。就学率の低さとそれに対する具体的な取り組みなどを紹介。女性の就学率が上がれば国の発展にも繋がる。	男性女性と分けるのではなく、一人の人間としてみるべきだ。調べることが好きになったから、もっといろんなことを知りたい。その時自分の意見をちゃんと持てるようになりたい。

い」という方向になったため、そのバランスを意図したものである。

### ■ビデオを見ての感想

- ・日本の学校と随分違う。
- ・イスラムの女学生も楽しそうだった。イスラムだからダメって事ではないんだ。
- ・寄宿舎生活は厳しそうだけど、学生の自治とか説教大会とか、教育によさそう。
- ・町の人も学校と関わりがあるっていうのがなんかよい。

## 2. バングラデシュ学習の感想記入

### ■学習を通して

- ・バングラデシュのイメージが、学習前と学習後で変わった。
- ・途上国について興味が出てきた。
- ・アジアについて興味が出てきた。
- ・直接人に接するって大事なことだと思う。(JICA訪問などを受けて)
- ・みんなが発表するようになってから、すごく面白くなった。議論が好きになった。

・発表は大変だったけど、ものを考えたり調べたりして自分に自信がついた。

・最初情報をなんでも「なるほど」と納得していたが、ツッコミ所がわかってきた。

### ■バングラデシュに対する理解

- ・もっと発展していない…というか、汚い感じのイメージを持っていました。失礼なことを思っていたんだと思う。
- ・貧困の問題はお金の面が欠けているだけと思っていた。(募金とか援助をすればいいと思っていた)
- ・夏休みに自分でバングラデシュを調べていて、ただ「貧しい」というイメージしかなかったのが、日本と同じように、映画を観たり遊園地があつたりすることを知ってイメージが変わった。
- ・イスラムのイメージが少し変わった。断食って初めて知ったけど、なんかみんなが共同体って感じがした。
- ・1番イメージが変わったのは、JICA訪問。バングラの人と話して、本当に都市にはしっかりとした学校もあるし、ちゃんとした仕事もあることがよくわかった。開発途上国というと、つい田舎のような所を思い浮かべてしまうのは悪いところだなあと思った。

## 成果と課題

### 成果

生徒の様子から、以下のような活動の成果があつたと考える。

I 「イスラム」「開発途上国」というステレオタイプで偏ったイメージから具体的な知識をもち、様々な面を持つことを認識するようになった。自分の中の偏見や知識不足に気づくこともあり、その地や文化に対する興味や敬意も生まれてきた。

\*イメージの変化には視覚映像や直接対話などの体験が効果大。JICA訪問感想にあつたように、「開発途上国の人」から、「この人もパパなんだよなあ」という感覚が、大きな影響を与えたと考える。

II それまで「外国のこと」「開発途上国の問題」として見ていた事柄を、興味を持って取りあげ、時に自分達と結びつけて考えるようになった。

\*学習後には「今後取りあげたいこと」に、「ホームレス」「日本のアフーマティブアクション」を挙げるなど、

自然に日本や身の回りの問題に目が向いていった。

III 単に本やインターネットの情報を写した「誰かの受売り」から、自分の視点や意見を持つことを意識するようになった。

\*内容に関してはまだまだ課題。本人の意欲を尊重。

IV レジュメ作り・発表・ディスカッションを通して、主体的に自分で考え、表現力を向上させた。意見を言うことに対する抵抗感が減った。発表者は自信となった。

\*友人の前で発表し、認められることで、教員が期待した以上のモチベーションが上がった。

### 課題

#### 1 制度・形態的課題

時間不足は深刻な問題であった。月曜7時間目で代休や行事等でよく潰れた。次の時間に繰り越すと期間が空いてしまい、生徒のモチベーションは下がっ

てしまう。時間内に活動を取めるようにしても、議論が中途半端で消化不良を起こすこともあった。また、放課後すぐに部活などがあるために、ディスカッションやゲストとの交流が伸びても残れない生徒、JICA訪問などの課外活動に参加できない生徒がいた。そのために、体験や知識、意識に差が生じてしまい、取り組みへの温度差が生じた。個人活動とグループ活動の形態については次年度までに研究する必要がある。生徒が調べる時間や個人指導は時間外に行ったので生徒の意欲に頼ることになった。

## 2 内容的課題

実践の目的で述べたような「ねらい」をもって活動したが、それぞれの生徒の研究内容自体は不十分な点が多い。中途半端な情報は危険である。生徒のモチベーションを下げずに、より専門的な助言を適切に得られるような方法を用意する必要がある。大学や研究機関、NGOなどとの連携のあり方を考える必要性を感じた。

## おわりに

みんなで意見を出し合うこと、一人一人と対話して問題意識や考察をたぐり寄せていくことが活動の中心だった。特に後者は生徒にとって案外つらかったらしく「何を取りあげたらいいかわからない」「自分に意見なんてない」とべそをかくこともあった。互いに「ナキ」の入った半年だったが、苦しんで模索した分、何かを得たと感じた瞬間は、生徒も私も本当に楽しく貴重な体験となった。また、「自分で考えることがとても面白くなった」という生徒に「学

ぶ」ということを改めて考えさせられた。

4月入学当初「国際人になりたい」と口をそろえて言った生徒に、「そのために必要なことはなんだろうね」と聞くと、「英語能力」や、「(政治などの)知識」という意見が多かった。

今回活動を終え、「ふり返り・アンケート」に同じ質問を載せると、次のような回答が書いてあった。

「いろいろな角度から考えること」「ものごとを深く考えること」「相手の気持ちを思いやること」「自分の主張を言えて、相手の主張も受け止められる心の広さ」「ちがう国の文化を、主観的・客観的に理解していること。自分の国も同じく。」「自国に固執せず、周囲の国の現状にも目を向けること」「先入観を持たず、いろいろ認められること」「他人に対して損得を考えずに接することができる人」

もらったそれぞれのシートに、ほとんど違う意見が書いてあることに驚いた。一人一人の生徒が、自分の意見と言葉をもっていたのがとても嬉しかった。

課題山積だが、今後も生徒が自主的に伸びるような活動を一緒に考えていきたい。そして改めて意識した『『国際理論』には何をどう学ぶのか』という基本的で大きな問いには、これから少しずつ取り組みながら考えていきたいと思う。

最後に、今回協力してくださった関係者の方々や先生方に改めて感謝申し上げたい。それぞれの生徒の発表内容や考察については、まだまだ問題もあり、私の指導も十分でない。反省しつつ、今度とも先生方や専門家のご意見や助言をいただきながら、生徒が自主的に伸びることが出来るような活動を、少しずつ一緒に考えていきたい。

## 参考文献

- 【諸外国の学校教育 アジア・オセアニア・アフリカ編】 文部省 H8
- 【世界の女性 動向と統計】 国際連合 日本統計協会訳 H13
- 【Bangladesh 国別援助研究会報告書】 JICA 1990
- 【もっと知りたいBangladesh】 大橋正明 よりよき協力への模索 弘文堂 H5
- 【開発途上国別経済協力シリーズ Bangladesh (財) 国際協力推進協会】 1996年調査に基づく
- 【タイ・Bangladesh・日本における 保健・衛生知識の普及と学校教育—心理・教育学的アプローチ—】 平成9~10年度 科学研究室補助金 研究成果報告書 H11 箕浦康子
- 【Bangladesh 黄金のベンガル】 旅行人 2002
- 【Bangladeshを知るための60章】 大橋正明、村山真弓 明石書店 2003
- 【河辺の詩—Bangladesh農村の女性と暮らし】 K・ガードナー 風響社 2002
- <http://www.accu.or.jp/litdbase/stats/bgd/bgd1.htm> (Literacy Rate Illiterate Population 2000 figures estimated by UNESCO Institute for Statistics, July 2002)


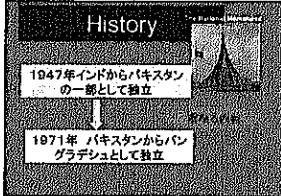



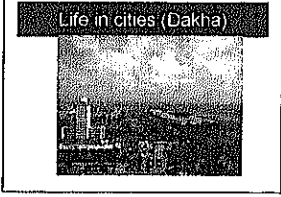
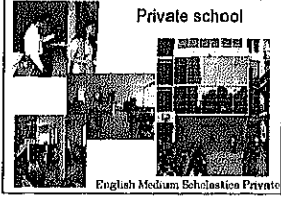
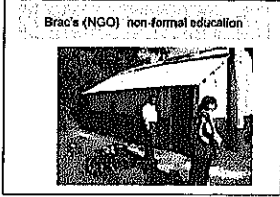
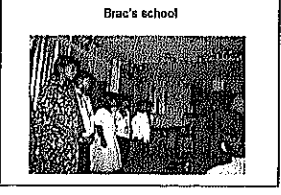
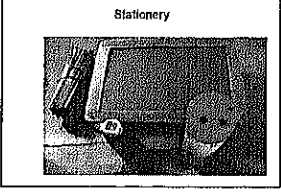
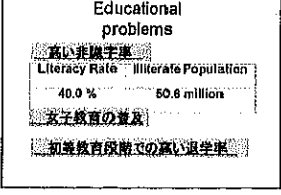
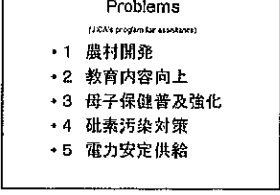
http://www.brac.net/edf.htm (Brac's non formal education)  
 http://www.globalfootprints.org/partners/csks.htm CSKS (Cinnamul-Shishu Kishore Sangtha street children)  
 http://www.proshika.org/uep\_prg.htm(Proshika's program for minority students)  
 http://www.shaplaneer.org/activity/bangladesh/street\_children\_dhaka.htm(Shaplaneer street children)

### 図授業で使った資料・教材の入手先

・「世界寺子屋運動」のパネルとビデオ  
 日本ユネスコ協会ホームページ <http://www.unesco.jp/contents/shiryou/unesco-index2.html>

## 資料

### 1 2時限 パワーポイント画面 (一部)

\*パワーポイント作成時には神奈川県立伊志田高校の小川先生の教材を参考とさせていただきます。  
 \*多摩大学附属聖ヶ丘中学・高等学校の石飛一吉先生にも写真を提供していただきました。

## 参加動機およびプロフィール

古い街や遺跡が好きです。旅では、人々の生活や「人間」に触れることを楽しみにしています。

バングラデシュは、教育援助・農村開発への興味と、複雑で豊かな文化に惹かれて希望しました。文献にある開発援助の実際や、自然や人々の生活など、生徒と学ぶにあたり、やはり自分の目で見て感じ、人々と直に接したかったことが、参加の一番の動機です。

国際理解教育では、生徒が「異文化→とにかく外国」「開発途上国→かわいそう」等、自分達と乖離したところで、ステレオタイプに捉えがちであることが気になっています。主体的に考え、自分や周囲の社会に引きつけられるような取り組みができればと思います。担当教科の国語では、自分で思考して表現すること、対話の中からそれを深めることを意識した実践を心がけています。コミュニケーションの重要さと、授業が相互作用であることを、痛感する毎日です。

現任校の九段高校は、千鳥ヶ淵・靖国の隣にあって、「都会の冷めた高校生」の予想を裏切る活発な学校です。(そして女子が7割、「女クラ」があります。)生徒の可能性と「生」の面白さ、厳しさに、一緒に発酵されています。

# ハングラデシュに学ぶ

## －「貧しさ」とは何か－

<b>石飛一吉</b> ISHITOBI KAZUYOSHI 地理 多摩大学附属聖ヶ丘高等学校（東京都）	実践教科 選択地理B
	時間数 4～7時間
	対象学年 2年生
	対象人数 82名（3クラス）

### カリキュラム案

#### 実践の目的

教材開発にあたっては、開発途上国の現状を理解し、何が求められているのかを考えさせる授業の展開を試みた。

下腹部のふくらんだ子ども、ゴミの山をあさる姿、粗末なスラムの建造物、援助物資に群がる人々など、こうした現状をテレビや新聞などで目にした生徒たちからは、ともすれば「かわいそう」、「ここに生まれなくて良かった」という声が漏れ聞こえてくる。しかし、「かわいそう」という言葉は、ある種の「判断停止」、「判断の棚上げ」状態で、これによって、具体的な人々の生活の現実や希望を読み取る作業過程を見えにくくして

いる。高校生という発達段階においては、感性を追求しつつも、事実を客観的にとらえる視点と方法を獲得し、比較・抽象化(概念化)することが求められている。

本カリキュラムでは、ニュース・新聞報道に限らず、学校の内外で取り上げられることの少ないハングラデシュについて、生徒自身の主体的な活動を通じて、開発途上国の現状を多角的に理解する方法を身につけ、開発途上国への援助の在り方を考察することを目的とした。そして最終的には、学習を通じ、当初の豊かな感性やイメージを活かしつつ、確かな情報の入手方法・見分け方を学び、日常生活や具体的な行動に結びつける態度の涵養を目的とした。

#### 授業の構成

時限・テーマ・ねらい	活法・内容	使用教材
<b>1時限</b> 事前アンケート (*1) ハングラデシュへの道 -Quiz & Knowledge-	ハングラデシュの基礎的な情報に関するクイズ形式のアンケートに、教師のヒントを聞きながら答える。	・プリント「ハングラデシュへの道」 (資料1)
<b>2時限</b> シミュレーション・ゲーム (*1) ハングラデシュ農民ゲーム -Imagination-	(1) ボード版「人生ゲーム」 ・条件の異なる作物を5年間植え付けることを想定して、サイコロの目で降水量を決め、収穫を求める。 ・「出来事カード」によって子どもの数、災害の発生などを決める。 (2) ふりかえりシートに自己評価、気づいた点をまとめる	・「ハングラデシュ農民ゲーム」キット (資料2) ・サイコロ (2個) ・ふりかえりシート (資料3)
<b>3時限</b> 発展学習1 (*2) 情報を整理する-Information Access-	ゲームに登場した言葉のうち、ハングラデシュの現状を知るために必要な語句をインターネットで調べ、プリントにまとめる。	・プリント「ハングラデシュを調べる」
<b>4時限</b> 発展学習2 (*2) 貧しさの原因と援助-Consideration-	ハングラデシュの貧困の要因を想定し、援助の現状を考察する。	・プリント「なぜハングラデシュは貧しいか？」 (資料4)

時間・テーマ・ねらい	方法・内容	使用教材
<b>5時間</b> 発展学習3 (*1) 写真は語る -Photo-Language-	3枚一組の写真からなる写真シートを3シート (計9枚の写真) 配布し、それぞれの場面から読み取れることを記述する。	・写真シート (資料5)
<b>6~7時間</b> まとめ (*3) バングラデシュ社会を分析する -Analysis-	(1) 作業・課題を通じて得た情報や知識を分析し、バングラデシュ社会が直面する問題を整理する。 (2) 援助のあり方について考える。	

\*1 教室でのグループ授業  
 \*2 時間に余裕が無い場合は自宅課題も可  
 \*3 一斉授業

## 授業の詳細

教材化にあたっては、生徒の興味・関心、または学校施設、生徒の状況、年間授業時間を考慮し、教材が取捨選択できるよう可変的教材となるようにした。アンケートやゲームの場面での生徒の素朴な疑問を活かしつつ、グループでの主体的活動を通じて、バングラデシュ情報を整理し、知識が深化していくように配慮した。

### **5時間** バングラデシュへの道

#### 目的

バングラデシュについて、クイズ形式で生徒の基礎的知識やイメージを確認する。

#### 内容

このアンケートは、正答数を競うものではない。アンケートを始める前に、このアンケートではそれぞれの問いについて4段階のヒントが提示されること、そのうちのどの段階のヒントで正解と分かったかを調査することが目的であることを説明した。

なお、ヒントを与えたのは勘に頼った解答や、予備知識のない生徒が空欄を残すことを防ぐためである。設問のなかには、どのような生活をしているかイメージをふくらせるため、服装や食事などを絵やイラストで答える問もある (資料1)。

#### 生徒の反応

事前アンケートでは、バングラデシュという国名はほとんどの生徒が知っていたが、その場所を地図上に正しく記入できた生徒は3割に過ぎなかった。人口がほぼ日本と同じこと、一人あたりGDP、貧困ラインについては十分理解出来ているとはいえなかった。

### **6時間** バングラデシュ農民ゲーム

#### 目的

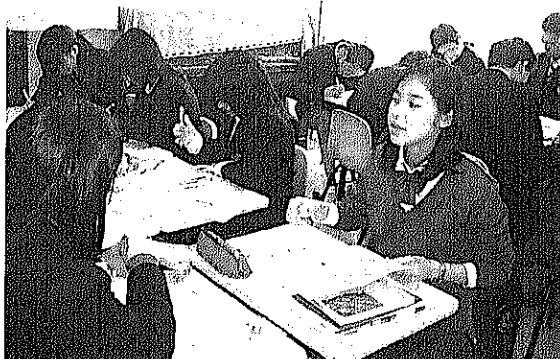
偶然性に左右される農民の生活を単純化したゲームを行い、バングラデシュ農民がかかえる問題点を浮き彫りにする。

#### 内容

このゲームは、イギリスの中等教科書 "Patterns in Geography" Vol. 3 に所収の "A Simulation - Chances in peasants farming" を参考に、バングラデシュの生活に合わせ、作物の種類と生育条件、降水量の型、出来事カードの内容など全面的に改変したものである。

5~8人程度を一つのグループとし、生徒一人がバングラデシュの小農という想定である。1グループごとに、ゲームの説明、ワークシート、出来事カード、ふりかえりシートの入ったキット (資料2) を準備する。最初にゲームの進行について説明する。ワークシートをやや複雑にしてあるので、一定の時間が必要である。ここでは生育条件 (降水) の異なる3種類の作物-①降水量の多い8月下旬から冬に栽培されるアマン米、冬の乾季にやや強いポロ米、②冬の畑作で栽培されるキビ (ラビ作物という) を1アールの耕地、4区画に作付けすることとした。

偶然性の高い降水量は、教師の振るサイコロの目で決められる。それにより1アールあたりの収量を表から読み取り、ワークシートのグラフに記入にする。その年の家族や村の変化は、生徒がそれぞれ「出来事カード」を引いて決定する。このカードには、



Bangladesh農民ゲームの様子

「グラミン銀行のマイクロクレジット融資」、「NGO指導によるノクシカタ（内職）」、「ダッカの織物工場勤務」、「海外への出稼ぎ」、「ヒ素の発見」、「JICAから農業術支援を受ける」など、Bangladeshの人々や社会の変化を表わす項目をできるだけ多く盛り込んだ。せっかく手に入れた収穫物もこのカードの指示によって、増減する。

1年に一人あたり5000タカの一定収入以上の収入があれば貯蓄となるが、逆に2000タカを下回ると飢餓状態となり、他から融資（借金）を受けなくてはならない。これを5年間繰り返して、最終的に収支の多い人を勝ちとする。Bangladeshにも少数の富裕層がいることを説明して、上位3人には景品を用意した。

教師は机間巡視をして、ゲームが公平かつ盛り上がるように配慮するが、もっとも大事なことは、生徒からの質問や発言に注意を払うことである。この素朴な発言に、生徒の本音が潜んでいる。これを記録して、つぎの学習の導入または質問事項に結びつける。

ゲーム終了後には、「ふりかえりシート」（資料3）で自己評価、まとめを行う。ここでも生徒の発言に注目しておく。

### 生徒の反応

テレビゲーム世代の生徒たちは、最初は手作りのBangladesh農民ゲームを馬鹿にしていたようだが、適当にやっていると貧困から脱出できないことを知ると熱心に取り組むようになった。毎年の降水量を発表すると、降水量－収量の関係グラフを見て歓声が上がリ、「また子どもが生まれた。7人目だ」、「女性はもういらぬ」、「洪水で、今年の収穫は一人あたり100タカしかない」「見て、5000タカ

の貯金が出来たよ」「ヒ素って、なに？」など、さまざまな声が聞こえてくる。生徒たちは、こうした一コマ一コマが開発途上国の現状を表していることにやがて気づき、一連の授業の最後には、自分たちの発した言葉の意味と重みを感じるようになった。

## 6時間 情報を整理する

### 目的

Bangladeshの社会生活を説明する上で必要な用語を調べてプリントにし、グループ、クラス内で情報を共有化する。

### 内容

この時間からが発展課題である。学校の設備・時間によっては家庭での課題とすることもできる。ゲーム中の質問や発言から、生徒が「分からない」という8つの用語を次に挙げた。

- ①海外出稼ぎ
- ②ヒ素汚染
- ③スラム
- ④グラミン銀行
- ⑤ノクシカタ
- ⑥結婚持参金（ダウリ）
- ⑦ODA
- ⑧ガンジス・デルタ

この中から3つを選んでインターネットで検索して調べることとした。インターネットを利用した理由は、Bangladeshに関する文献が少ないためである。調査結果をプリントにまとめ、グループメンバーに配布した。

## 4時間 貧しさの原因と援助

### 目的

貧困から脱出できない要因について考察し、各自の考えをまとめる。また、現在行われている援助に関して、基礎的知識の定着度をみる。

### 内容

Bangladeshの農民が貧しい理由、イスラム社会での女性の自立、売春をしなければならないような苛酷な条件で生きる子どもの対策などを考察し、



意見をまとめる。この段階ではまだ詳しい説明をしていないことに加えて、インターネットで調べても分からないような質問項目が多く、生徒自身が考えなくてはならない問いが多い。また、日本はバングラデシュに対して、具体的にどのような援助をしているかなども考える。授業後、代表的な意見、相反する意見などをプリント『バングラデシュは貧しいか?』（資料4）にまとめる。

## 【5時間】 写真は語る

### ■目的

写真から、バングラデシュ社会のもつ問題点を発見する能力を身につける。

### ■内容

一見無関係な風景、学校、店舗、建物、子どもなどが映っている3枚一組の写真を一枚のシートにプリントして、このシート3枚、合計9枚の写真を準備した。（資料5）

9枚ある写真について、グループ内で担当を決める。それぞれの写真について、①どのような場所か？ ②何をしているか？ ③どのような人が住んでいるか？ などについて、写真から得られる情報を想像力を働かせて読み取る。読み取ったことを写真一枚につき200字程度にまとめる。また、これらの写真を組み替えて、所得水準の低い生活から富裕層まで3枚ずつに分類する。

### 生徒の反応

バングラデシュの人々の衣装などの文化に関すること、国土の3分の2が水没した大洪水や井戸水のヒ素汚染、大気汚染などで人々が大変な思いをしていることなど、バングラデシュの置かれた状況をよく理解したようである。

写真を所得水準別に並べ換えてみたとき、改めて富裕層の存在が異質に映ったようである。ダッカの富裕層で人気のテーマパークの写真を呈示したところ、貧しい人が多いダッカでも、一部は日本人と同じような生活を営んでいることにショックを受けたようである。

## 【6～7時間】 バングラデシュ社会を分析する

### ■目的

これまでの学習を踏まえ、自然環境と共存するバ

ングラデシュ社会について説明、講義を行うとともに、バングラデシュが直面する問題を4つのテーマごとに説明し、理解を深め、今後の援助の在り方を考える。ここでは必要に応じて新たな写真を提示した。

### ■内容

- ①自然環境について、低湿帯とモンスーン常候地域について説明する。洪水が農業または都市生活に与える影響、ダイポール現象（ベンガル湾のエルニーニョ）についても説明する。
- ②洪水発生の要因を多角的にとらえ説明する。従来から説明されてきた地形やインド側のダム放流によるものだけでなく、とくに都市部ではゴミ放置とレジ袋による洪水発生について説明する。開発途上国における環境問題への取り組みと問題点を紹介する。
- ③国家財政レベルでの貧困対策と海外からの援助について、とくに日本からの援助について説明する。一方で、普段は情報が少なく目にする事のない開発途上国におけるエリート教育の紹介およびその問題点を説明する。
- ④イスラム社会における女性の社会進出、役割について説明し、バングラデシュの最近の変化について説明する。とくに出産、子育てと医療、健康管理の面から、取り組みを紹介する。

### 生徒の感想

○バングラデシュの学習で第一に思ったことは、貧富の差が著しいということである。とくに、階層による学校の格差には驚かされた。床もない暗い小屋のような教室で、机もノートもなく勉強している生徒もいれば、鉄筋コンクリート造りで冷房完備の教室と、シャワー室もある学校に通う生徒もいる。一日1ドル以下の生活をするような国で、こんなに条件の良い学校に行けるとは、どのような暮らしをしているのが疑問に思った。

また、バングラデシュでは農業のほかにも、どのような職業があるのか興味が湧いた。農民のように、不安定な天候に左右されながら生きている人がいるかと思えば、日本のような高層ビルのオフィスに勤め、パソコンを使って仕事をしている人もいる。この差はどこから生じるのであろうか。ギャンブルのような人生を送らざるを得ない人に、海外へ出稼ぎに出た者が送金したとしても、社会の仕組みを変えない以上、危険な賭（ゲーム）は続く。もっと安全で正確な情報の提供が必要だと思う。

○バングラデシュ農民ゲームでは、不安定な天候以外にも、「出来事カード」を引くことによって様々な事件が起きた。しかし、実際のバングラデシュの生活では、もっと苛酷な生活環境だと思う。増え続ける子ども、その日の食べ物にも困り、そして売られていく…。そんな生活の悪循環が続けば、バングラデシュという国は二度と自立できなくなってしまうかも知れない。そこで必要なのは日本をはじめとする外国からの救いの手である。しかし直接的な食糧や資金の援助だけでは一時的なものになってしまうだろう。恒久的な洪水防止のためへの設備建設や、将来の人材を育成するための低所得者層への教育援助が

必要である。農業を活性化するための設備投資や収量を安定化するための品種改良、湿地に合う農業方法の研究・開発、さらには日常生活に必要な物資を生産するための工業技術の提供などを図るべきだと思う。こうすることによって、バングラデシュの人々の生活水準も向上するだろう。こうした開発途上国の生活を他人事だと決めつけないで、日本から何ができるかを考え続けていかなくてはならない。いつかは全世界が安全で平和となるよう、他の国も関心を持ち、しっかりとした心掛けを持って日々の生活を送りたいと思う。

## 成果と課題

授業から得られる知識や理論レベルの話と、実際の私たちが営む日常生活とをいかに結びつけていくかが課題であろう。頭の中で理念的に援助が必要と分かっている、実際に何ができ、何をすればいいのか分からない生徒がまだまだ多い。生活者の視点から発想することができたときに初めて、援助の有効性が見えてくるように感じた。この実践を通じて、生徒とともに国際理解、異文化理解教育には右の4つの段階があることを改めて学んだことは成果といえよう。

### 国際理解ための4段階

- ①知識形成  
現地における正しい知識と認識
- ↓
- ②分析視点形成  
問題の所在、原因・要因を分析する力の育成
- ↓
- ③態度形成
- ↓
- ④行動形成





**資料**

**3 2時間 ふりかえりシート**

**ふりかえりシート**

- (1) あなたは、このゲームに  
積極的に参加した? 5-4-3-2-1  
おもしろかった? 5-4-3-2-1  
バングラデシュ理解に役立つか? 5-4-3-2-1  
援助の必要性について理解できたか? 5-4-3-2-1
- (2) 最終的にあなたの収支は…  
1-1 プラスだったか、マイナスだったか? 5-4-3-2-1  
1-2 プラスの人は、うまくいった理由をあげよ。  
マイナスの人は、うまくいかなかった理由をあげよ。  
(作物の組み合わせ方について)
- (3) 子どもが大勢いることによるプラス面とマイナス面を、それぞれあげよ?  
プラス面:  
マイナス面:
- (4) 農業で収益をあげるために、どんな情報があれば良いと考えるか? 3つあげよ。  
①  
②  
③
- (5) このゲームを終えて、考えたこと、思ったことを自由に記せ。

年 組 番 氏名:

**資料**

**4 4時間 プリント「なぜバングラデシュは貧しいか?」**

**発展学習シート2 なぜバングラデシュは貧しいか?**



- (1) バングラデシュの農民が貧しい状態にあるのは、なぜか?
- (2) バングラデシュでは小農民より、貧しい状態におかれている人々がいる。彼らの職業は何だと思うか?
- (3) イスラム社会では、女性の社会進出や労働が制限されている。女性の自立に必要なことは何だと思うか?
- (4) バングラデシュはイスラム社会ではあるが、残念ながら Sex Worker(孫春線)がいる。家族・子どもへの支援がなければ、多くの少女が低年齢から同じ道を歩むことになる。  
4-1 彼女たちは、なぜ、その道を選んだと思うか?  
4-2 子どもが母親と同じ道に進まないようにするには、どうすれば良い(対策は何だ)と思うか?
- (5) バングラデシュに一番多くの援助をしている国は日本である。どのような援助をしていると思うか?考えられるものを3つあげよ。  
①  
②  
③
- (6) (5)の内、最も大事な援助は、何か?



年 組 番 氏名:



資料

5 5時限 『写真は語る』で使用した3枚のシート

**写真学習シート①-③の学習目標**  
 つぎの③-①-②の3枚のシート（それぞれに3枚の写真が掲載）、9枚の写真について、  
 グループで担当を決め、写真から読み取れることを200字程度記述せよ。  
 1.どのような場所か（都市か田舎）？ 2.何をしているところか？ 3.どんな人が写っているか？ 4.どんな気候だろうか？  
 \*【高収入～庶民～貧しい】の3つ所得層のどれに関連するか、3枚ずつに分類してみよう。

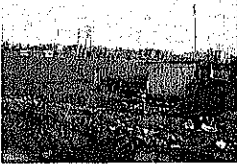

**A**  



**B**  

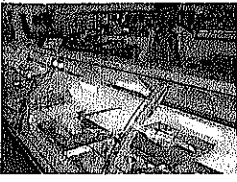
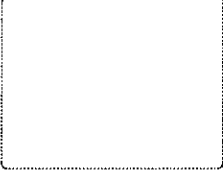
**C**  

2年 組 番 氏名:

**写真学習シート④-⑥の学習目標**  
 つぎの③-①-②の3枚のシート（それぞれに3枚の写真が掲載）、9枚の写真について、  
 グループで担当を決め、写真から読み取れることを200字程度記述せよ。  
 1.どのような場所か（都市か田舎）？ 2.何をしているところか？ 3.どんな人が写っているか？ 4.どんな気候だろうか？  
 \*【高収入～庶民～貧しい】の3つ所得層のどれに関連するか、3枚ずつに分類してみよう。



**D**  


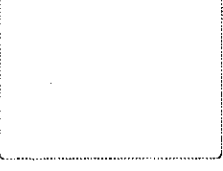
**E**  

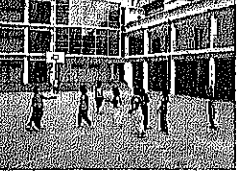

**F**  

2年 組 番 氏名:

**写真学習シート⑦-⑨の学習目標**  
 つぎの③-①-②の3枚のシート（それぞれに3枚の写真が掲載）、9枚の写真について、  
 グループで担当を決め、写真から読み取れることを200字程度記述せよ。  
 1.どのような場所か（都市か田舎）？ 2.何をしているところか？ 3.どんな人が写っているか？ 4.どんな気候だろうか？  
 \*【高収入～庶民～貧しい】の3つ所得層のどれに関連するか、3枚ずつに分類してみよう。

**G**  

**H**  

**I**  

年 組 番 氏名:

参加動機およびプロフィール

私はこれまで主に地理教育・国際教育や進路指導などを中心に、教材開発や教科書作成、事務局などに関わってきました。とくに、東アフリカや東南アジアなどに関心があり、いくつかの実践例を発表してきました。今回の研修を機に、新しい視点からの教材開発に取り組みたいと考えています。

21年間勤務した都立高校から私学の中・高一貫校に勤務したばかりで、校内での体制作りや教育方法を含めた教材の作成について模索している最中です。「生徒の途上国に抱くステレオタイプをいかに変革するか。」この点を中心に開発教育を取り組めないかと考えています。情報量の偏りから日常生活の範囲に関心や考えが限定されがちな高校生に対し、常識と概念を崩す事例を取り上げて行きたいと思います。また高校生の持つ感性と行動力に期待しつつ、世界に飛び出す生徒を育てる「空とぶ教室」をめざしたいと考えています。